



よつば会だより

2023年6月号

発行:NPO法人

尾道こころネットよつば会事務局

尾道市 栗原東 2丁目 17-86

TEL・FAX 0848-37-6600

6月を迎えました。6月と言われて真っ先に思い浮かべるのは、紫陽花の花と梅雨入りでしょう。この原稿を書いている5月末には、我が家の庭の紫陽花はつぼみが出そろってはいますが、まだ緑一色です。間もなく色づいてくるでしょう。梅雨入りは沖縄ではとくに始まっていますが、中国地方では例年6月10日ごろです。梅雨明けは7月20日ごろです。この時期に集中豪雨による河川の氾濫騒ぎが毎年繰り返されていますが、今年は平穏無事に過ぎたと言える年になってほしいものです。



～会員の高齢化が進む「よつば会」を存続させるにはどうするか～ よつば会通常総会を開催しました



5月21日に、NPO 法人尾道こころネットよつば会の通常総会を開催しました。議案は、令和4年度事業報告・会計収支報告、令和5年度活動・事業計画で、事務局からの説明を受けて出席者全員の賛同で可決されました。また、よつば会の役員が改選の年に当たることで、新役員の承認が必要だったのですが、理事長、理事2名、監査1名の旧役員が今年度も続けることで承認されました。以上で総会は終了しました。

全国の多くの精神障害者の家族会が、会員の高齢化で会の運営に困難をきたしているという調査結果が報告されていますが、よつば会もそうした家族会の一つという状況になっています。しかし、家族会は地域に一つは必要なものです。これから2年間、よつば会の存続を図りながらの活動となります。



家族教室で訪問看護の研修会を ～成年後見制度についても早めの対応が必要だが～



よつば会総会終了後に、「よつば会家族教室」を行いました。いつものように参加者の近況報告から始めました。総会で30分近くの時間を費やしていましたが、時間制限は求めずに話してもらいました。私の耳の聞えが数日前から悪くなっていて、4月の家族教室のときには、ちょっと大きな声で話す人の近況報告の内容は、あらかじめ聞き取れていたのですが、この日は話す人全員の近況報告がほとんど聞き取れないという状況でした。通院している市民病院の主治医は週に一度月曜日にしか診察を行っていないので病院には行かずに、何とかなるだろうと総会・家族教室に臨んだのですが、やはり駄目でした。それでも「よつば会だより6月号」に当日の家族教室の状況報告をしたいと思って、的外れになるのではないかと思います。

報告は訪問看護についてです。参加者の女性が近況報告で、息子さんの体調が心配なのだが息子さんに話しかけてもいい会話にならないと話されました。すると、他の参加者から「息子さんには訪問看護の人が来てくれていましたね。お母さんは訪問看護の人と話をされますか」という質問がなされ、女性が「あまり話していません」と答えると、「お母さんが訪問看護の人に、心配事などを話されてもいいのではないのでしょうか」というアドバイスがなされました。このように、近況報告で話されたことに対して、他の参加者からアドバイスがなされることがよくあります。実は、この女性が話す前に、ある参加者から近況報告の中で、「成年後見制度や訪問看護について話をしてもらえる人に心当たりがあるので、総会の事業計画を受けて研修会を計画するなら当たってみますよ」という話がありました。振り返って考えてみれば訪問看護について、派遣を求めるにはどうしたらよいかは時々話題になりましたが、その役割の範囲や家族が心得ておくことなどを話し合ったことがありません。話をしてもらえる人に心当たりがあるとあってもらって、研修会を開催したくなりました。早速具体化の検討を進めていきます。(N.T)

5月の活動報告

21日 よつば会総会 (市民センターむかいしま)
家族教室 (〃)

6月の活動予定

18日(日) 家族教室 (市民センターむかいしま)
◎「サロンよつば」は毎週水・土曜日にオープンしています
(10:00～)





～同じ悩みを持つ人たちが学びあい支え合う貴重な集い～ 家族教室の存続を願って(そのII)



よつば会だより5月号の「尾道こころサポート事業に期待」という記事に、尾道市の「第7期障害福祉計画作成にかかわるアンケート調査」への回答に、よつば会として強く提起していきたいこととして、① 親なきあと問題 ② 精神障害者の家族教室の運営について ③ 精神科医師の患者への対応 の3点を取り上げたことを書きました。これらの提起に込めた思いをよつば会だよりに書いていくとして、5月号には①について書きました。今回は②について書いていきます。

「精神障害者の家族教室の運営について」は、尾道市のアンケートへの回答では、「よつば会家族教室が地域の精神障害者の家族会の役割をささやかながら果たしてきたが、よつば会が家族教室を続けることが難しくなってきたり、市の方で運営してもらえないか」というお願いの文章にしています。市の担当者に受け止めてもらうには、まず、精神障害者の家族会が地域に一つはなくてはならないものであることを理解してもらう必要があると考えました。そこで、家族会の存在意義をよつば会だよりに書いたことがあるはずだと探してみました。見つけたのが、平成25年5月号の「家族会に関する調査から」と題した記事でした。同年に「みんなねっと」が全国の精神障害者の家族会を対象にアンケート調査を行っており、その結果をまとめた冊子がよつば会にも送られてきました。その冊子をもとに原稿を考えて、5月号の記事にしました。その記事の中に次のような家族会の存在意義につながる文章がありました。

・家族同士のつながりが支えに

家族会の存在意義は、同じ悩みや不安を抱えた家族の集まりであり、安心して自分のことを語ることができ、その話にお互いが共感を持ちあえることで、相互支援や癒しにつながることで、また、必要な情報や身近に役立つ情報が得られること、学習し理解と知識を深めることができる場でもあります。全国調査の「考察および分析」の中に、次のような注目すべき文章がありました。

「医療機関は家族にとって、最初に相談窓口になる場合が多い。当会(みんなねっと)の相談電話に寄せられる相談においても、家族だけではどうにもならず、業にもすがり思いで相談につながった家族の姿を目の当たりにする。家族は相談機関につながるまで孤軍奮闘しており、専門家の何気ない言葉や態度がさらに家族を追いつめ、孤立した状況に追い込んでしまうことも少なくない。専門家からの病気や薬の知識等の情報はもちろん大切であるが、家族は自分の体験に基づいた知識と言葉を持っているため、家族会が家族にとって適切な情報提供の場になることも多い。家族会の『家族である』という条件が、『同じ立場だから分かってもらえるのではないか』という家族自身の安心感につながり、家族が社会とのつながりを取り戻す機会になると考えられる」

この文章にある「家族会の『家族である』という条件が、『同じ立場だから分かってもらえるのではないか』という家族の安心感につながり」というところが、家族会の存在意義の核心だと思います。そうすると、家族会は家族で構成し、家族で運営するのが望ましいとなるのですが、それなのに運営を市の方でというお願いは、尾道から家族会がなくなることへの不安が高じているからです。市の障害福祉係がかって家族教室を行っていたことを記憶しています。また、現に、広島県内のいくつかの地域で、行政と家族会がタイアップして家族会を運営しているところもあります。

以上のようなことから、ヒアリングの場で話に出し、その後行政の方によつば会家族教室に参加していただきながら、話し合っていくことになればと考えています。

もう一つ、③ 精神科医師の患者への対応は、字数が尽きてしまいました。次の機会にします。(N.T)